

資料 2

各区における地域連携事業の 取り組みについて

北区

北地区公民館の取組

・ 地元大学生・地域との連携事業

(1) 一休さん

新潟医療福祉大学学生ボランティアサークル「レクア。(トット)コム部」との企画運営によるこども向け体験講座

- 回数 年2回
- 特徴 学校週5日制によるこどもの居場所づくりとした「一休さん」が平成14年度から学生ボランティアと地域スタッフによる企画運営事業となる
- 内容 小学生向けのイベント開催に向け、企画会議で具体的な内容を検討し、開催当日の運営も行う
令和6年度：7月「スペシャル七夕」
12月「ブラックサンタがやってくる」



昨年度の様子「一休さん」

(2) 令和6年度の成果と感想

- 成果 延べ参加者数42人・学生30人・地域8人
参加者アンケート結果による満足度96%
- 感想 「内容が楽しかった。また参加したい。」
「他の学校の子とも交流できてよかった。」
「大学生のおにいさん、おねえさんがやさしくてよかった。」など

(3) 活動協力員の意見

高齢世帯の増加や孤立化が進む中、地域住民の交流の機会(仲間づくり)は必要。地元大学の学生や地域サークルが企画運営する子どもたちの体験活動の場の提供は地域の活性化につながる。

(4) 課題

学生が実習やバイトなど多忙化。また移動手段がなく企画会議は数名、当日の人員確保が困難。地域スタッフの高齢化が進み、活動人数が減少。地域連携のネットワーク拡大へ向けた取り組みが必要。

北区(追加)

豊栄地区公民館の取組

・ 豊栄大民謡ながし(令和7年度・第68回)

(1) 経緯と現状

- 目的 伝統文化の継承、市民の交流、魅力あるまちづくりを図りながら地域振興に寄与する。
- 経緯 昭和32年の町村合併時、一体感を願い商工祭として開催。コロナ禍以前は豊栄駅前商店街路上で30団体約1,600人が参加。250年以上続く葛塚まつり前日9/5開催。
- コロナ禍のR2～4年中止。R5完成した北区役所前駐車場で復活(11団体534人：コロナ前の約3割)。
- R6～区役所前の道路上で開催(駅前開催希望あり)。
- R5～民謡以外連携：葛塚中吹奏楽部・新潟医療福祉大学よさこい部・和太鼓部・軽音楽部・どこでも児童館
- R7参加者 19団体731人(うち小中学生約250人)

R5(区役所駐車場での復活)



R7(路上開催)



(2) 令和7年度の改善と成果

- 改善点 役割確認と全作業の前倒し。猛暑対策で踊り時間の短縮と休憩時間拡大。区役所応援体制での設営。学生等参加団体ボランティアによる撤去作業。
- 成果 医療関係、町内会の参加復活。協力体制による協賛増額。初のポスター制作と広報。協賛団体から初の飲食ブース出店。(7店舗)

(3) 活動協力員の意見

- 多世代交流の場であり継続を。コロナ禍でこどもの体験減少(ざりがち唄・踊り)。公民館から学校へ踊り練習の投げかけ。葛塚まつりとの連携。
- 小学校運動会で保護者との新潟甚句の復活事例を参考に、参加しやすさで参加者を募る。
- 踊り・笛・太鼓指導にタブレットを活用。

(4) 課題

- 参加団体の減少(企業、自治会)
- 暴力団排除条例改正による露店・キッチンカー対応
- 葛塚まつりとの連携
- 伝統文化の継承(踊り、笛、太鼓)、学校との連携

東区

石山地区公民館の取組

・地域のコミ協連携講座

(1) お互いさまネット石山（事業の背景と概要）

- 回数 連続3回(令和7年5～6月に実施)
- 特徴 高齢化率が高いという地域の課題を踏まえて石山地区の4コミ協から選出された企画委員と東区社協と一緒に企画・運営している。**講師もできるだけ地域で活動している人をお願いしている。**
- 内容 知って備える在宅介護のいま～在宅介護の基本を学んで大切な人を支えよう～
 1. 住み慣れた地域で生きるために
 2. 突然の介護に備える！
－ケアマネが教える基礎知識と準備－
 3. 人生の最期を穏やかに過ごすお手伝い



(2) 令和6年度の活動協力員の意見と改善点

- 意見 ・6年度の事業の参加者は31人と定員40人に満たなかったため、広報を工夫した方がよい。
・質疑応答の時間を長くとした方がよい。
- 改善点 ・企画委員がそれぞれの地区の地域の茶の間等にチラシを配って参加を呼びかけた。
・講師との打ち合わせの際に質疑応答の時間を多めに設定するよう依頼した。

(3) 令和7年度の成果と意見

- 成果 ・定員(40人)を上回る申し込みがあった。
・参加者アンケート結果の満足度は91%、今後に生かしたいは100%であった。
- 意見 ・認知症・介護の問題は今後も切り口を変えて取り上げてほしい。

(4) 今後の課題

- 参加者の満足度をさらに上げるため、引き続き4コミ協や東区社協と協働しながら、地域の課題解決に向けた事業を企画していく。

中央区

東地区公民館の取組

・令和7年度地域連携について

(1) 地域活性化支援事業

- 連携先 新潟大学、万代高校、沼垂地域（沼垂テラス、地域ボランティアなど）
- 内容 学生(留学生含む)が沼垂地域をフィールドワークし、現状と課題について発表。
発表会場を万代高校とし、高校生に聞いてもらうことで、学生はプレゼン能力の向上、高校生は学生の学習成果を直接聴くことが出来た。その他、高校英語コース生徒が決めたテーマで英語で話し合ったり、高校部活動（茶道・箏曲など）の体験機会を設け、お互いに交流することが出来た。



(2) 事業の成果・意見

- 学生のアンケート結果では「地域のつながりの強さを感じた」「地域課題(人口減少、空き家問題)に目を向けるきっかけとなった」「発表スキルを高めた」という意欲が生まれたなどの意見があった。
地域の方からは「世代・立場を超えた対話の場は意義深い」「公民館の継続的な事業を通じて若者との交流の場が出来た」との意見があった。

(3) 活動協力員の意見

- 現在実施している地域活性化支援事業は沼垂地域が主であるが、他の地域でも課題があるのでは。
今後、他の地域で事業を行うことも考慮し、地域との関係性を築き、課題を把握しておくことが必要。

(4) 今後の方向性と課題

- 地域と若者との交流の場を継続して設けることで人材育成及び地域活性化に繋がるものと考えため、引き続き事業を実施する。
継続して実施していくために、地域の高齢化、交通課題や魅力の発見などについて、若者が積極的かつ実践的に取り組むことが出来る仕組みづくりが必要。

江南区

亀田地区公民館の取組

・大江山地区コミュニティ協議会との連携事業

(1) スマホの便利な使い方講座／絵手紙講座

- 目的 大江山地域住民を対象とした公民館事業を大江山農村環境改善センターで行うことにより、大江山地区の生涯学習の推進を図る
- 回数 スマホの便利な使い方講座 7～9月 3回
絵手紙講座 10月 2回
(完成作品は大江山文化の祭典で展示)
- 役割 協働で行うもの・・・企画内容
コミ協・・・回覧・告知等地区内PR
公民館・・・チラシ作成、募集、講師交渉など
- R7参加者 スマホの便利な使い方講座 全3回 24名
絵手紙講座 全2回 22名

今年度の様子



(2) 令和7年度の成果と課題

- 成果 コミ協と内容を相談し実施。参加者アンケートではスマホ講座では、満足度は95%、絵手紙講座では、満足度100%と概ね満足いただけた。
- 課題 新規参加者の獲得
高齢者対象以外の講座等の展開

(3) 活動協力員の意見(計画段階)

- 地域団体と連携し、文化祭や文化展などの発表の場の提供や支援のほか、地域ニーズに応じた体験事業や交流の場などの事業に取り組むことが必要

(4) 今後の方向

- 令和7年4月に大江山公民館の名称が廃止となり、地域住民が不安にならないように、アンケート結果やコミ協との打ち合わせを通して、内容を精査し、地域や学校と連携した公民館事業を実施する。併せて、スマートフォンの講座などでは、地域の人材活用、交流の観点から地元の高校生等が講師となるような講座が可能かどうか、コミ協と協議しながら進める。

秋葉区

新津地区公民館の取組

・新津地域学園活用プロジェクト

(1) 事業の背景と概要

- 概要 地域のコミ協やCSとの協働により、新津地域学園(新津地区公民館)をこどもの居場所として活用し、地域への愛着を育むとともに地域一体となってこどもの成長を支えるこどもが真ん中のプロジェクト。
- 背景 阿賀浦コミュニティ協議会の未来ビジョン(R5完成)
①人が集まる交流の場をつくる ②若者・こどもが住みやすい街をつくる ③地域学園をもっと活用したい！

<夏休み学習室「Enjoy study room!」開設>

- (1)新津第五中学校のCS会議でプロジェクト提案
- (2)生徒・CS委員、コミ協が公民館に集いワークショップを開催、どんな場所なら行ってみたいか話合った。
- (3)アイデアを反映

- ①愛称を「Enjoy study room!」に
- ②開設時間の延長
10:00～18:00
⇒9:00～19:00



(2) 令和7年度の成果

- 成果 ワークショップ参加生徒が校内放送で紹介してくれたこともあり、開設39日間の延べ利用者数262人 ⇒昨年度の2倍以上！五中生徒は4倍の約100人に！
- 工夫 ①五中生徒全員にチラシ配布 ②新津駅構内にポスター掲示 ③クッション・消しカス入れを用意

(3) 活動協力員の意見

- コミ協とつながらないと公民館の役割、使命を果たせないのではないか。
- 話し合いの場が設けられ、いろいろな立場の人が意見を出し合い、交流できるとよい。

(4) プロジェクトのこれから(課題と対応)

- 勉強を教えてくれる大人がいるといいな
⇒コミ協や地域教育コーディネーターとともに検討
- 冬休み、春休みにも ⇒まず、冬休み開設
- フリースペースも利用しやすく
⇒利用の当事者(生徒)の声を聴きリニューアル予定

南区

味方地区公民館の取組

・キッズ味方音頭体験教室

(1) 事業の背景と概要

- 昭和53年に当時の味方村として民謡「味方音頭」が製作され、小・中学校や地元民謡クラブなどにより踊られていたが、近年は小・中学校はよさこい踊りに替わり、地元の民謡クラブも消滅、旧民謡クラブのメンバーで細々と踊られていた。
- 昨年のイベント「味方地区ふるさと納涼まつり」で味方音頭を披露したが「今年で最後、来年からはこどもたちから踊ってもらって！」という一言から、今年度新規にこどもを対象にした教室を開催することとした。
- 味方音頭が忘れ去られる恐れがあることを前面に出し、令和7年の「味方地区納涼まつり」でのステージ出演をめざして、小学校の放課後「自主活動クラブ」で募集したが、参加者数が少なく開催するかどうか思案した。
- まつりの実行委員から「一緒に踊る」という力強い後押しがあり、参加児童は少なかったが実施にこぎつけ、イベント当日は実行委員、一般聴衆も加わり多くの参加を得た。
- 教室回数 3回 ●参加者数 4人
- 講師 味方音頭を踊って来た地元の民謡師範

(2) 参加した児童の声

- 成果 参加児童の開口一番「来年もやりたい！」という一声が全てを物語っていた。まつり実行委員も一緒に踊ることで参加者の一体感が図られた。
- 課題 初年度であり、こどもの参加が少なかった。

(3) 活動協力員の意見

- 地域の交流が少なくなり、地域の者が地域のことがわからなくなってきている。
- イベントでみんなで盛り上がる賑わいはよい。

(4) 今後の取り組み

- 小学校の水曜午後からの「自主活動クラブ」の機会を利用して参加者を増やす。
- イベントでの味方音頭の位置づけを明確にし、イベント参加者全員が踊りに参加したくなるような取り組みを提案していく。



踊ったあとのこどもたち

西区

西地区公民館の取組

佐潟クリーンアップ活動

(1) 事業の背景と概要

- 明治以前：佐潟は灌漑用水のため池として水田活用の役割を担っており、住民総出の「潟普請」（泥上げなどの清掃活動）などを実施
- 1996年：ラムサール条約湿地に登録
1998年：佐潟水鳥・湿地センター開設
2002年：西地区公民館主催「赤塚地域学」から「佐潟と歩む赤塚の会」が誕生
2003年：第1回佐潟クリーンアップ活動開催（以降、毎年秋に実施）
- 佐潟の自然保護や生態系の保全を目的とした、地域住民からなる「佐潟と歩む赤塚の会」を中心とした佐潟周辺の清掃活動。地元・市民団体、有識者、行政が一体となり、佐潟の自然環境保全や賢明な利用、そしてこれらを促進する交流・学習の推進に向けた協議も並行して行われ、2022年、新潟市が日本初のラムサール条約湿地自治体に認証された。

(2) 成果と課題

- 成果：公民館も実行委員会に加わり、地域住民、地元小中学校と一体となり、「佐潟の環境保全、賢明な利用、交流・学習」を目的とした、学・社・民の融合による、人づくり、地域づくりに寄与。
- 課題：自然環境の変化（ハスやヒシの消滅など生態系の変化）への対応。地域団体メンバーの高齢化・固定化などの対策となる次世代の担い手育成。

(3) 今後の取り組み

- 新たな取組「ハス復活プロジェクト」が赤塚小学校の総合学習と連携され実施されているなかで、公民館の役割を認識し、「人と人をつなぎ、地域課題解決の支援」に向け、ともに取り組む。



西蒲区

岩室地区公民館の取組（岩公まつり）

(1) 岩公まつりについて 公民館でつながる地域の輪

開催日 令和7年11月29日(土) 9:30~15:30
特徴 岩室地域内の住民や施設、学校と連携し、**子どもから高齢者まで幅広い世代が参加できる多彩な催しを展開。特に中学生が主体的に関わる企画もあり、若い世代の活躍の場となったり、地域全体の一体感を高める機会になるもの**

保育園作品展示

内容 保育園児の描いた作品の展示
子どもの成長を地域で育む機会に
出展者 岩室保育園、和納保育園



昨年度の作品展示の様子

ものづくりワークショップ

内容 岩室中学校の生徒、地域の方、地域の施設職員などが講師となり、ものづくりのワークショップを行う
講師 岩室中学校文化部
笑がおの会（公民館登録団体）
ナナイロドロップ（岩室在住）
岩室児童館 岩室民俗史料館



昨年度のものづくりの様子
(講師:岩室中学校文化部)

活動体験

内容 地域の方、地域の施設職員が講師となり、様々な体験を行う
講師 岩室民謡同好会（公民館登録団体）
マジックいむろ（公民館登録団体）
堀川ランプ（岩室出身昆虫芸人）
岩室民俗史料館友の会



昨年度の音あそび体験の様子
(講師:岩室民俗史料館)

(2) 令和6年度の成果と課題

- 成果** 子育て世代を中心に年齢問わず来場し、まさに地域全体が一同に会する場となった。**岩室中学校文化部**が積極的に動いて住民と接する様子も見られ、学校関係者は「いつもよりイキイキとしている。成長した」と喜んでいて。生徒自身も「思ったより楽しかった」と語り、**教える立場を経験する貴重な学びの場**にもなった。
- 課題** 地域回覧で周知したため、他地区の来場者が少なかった。

(3) 活動協力員の意見

- 昨年度は各ブースにおいて、参加者の来るタイミングがバラバラとなり、ものづくりの進捗具合の把握に苦労した。
- 保育園の子どもたちの作品をみて、気持ちがパッと明るくなった。あまり見られる機会がないので、こういった取り組みを続けたい。

(4) 改善点

- ブースごとに体験の時間帯を複数回設け、時間帯ごとに申込受付を行うことで、**進捗具合の把握が容易**になるよう改善を行う。
- より多様な参加を促し、交流の広がりを生み出すため**、区役所だよりに掲載し、西蒲区全体にも広報するほか、岩室地域においても全戸配布される地域コミュニティだよりに掲載し、周知徹底を図る。
- 公民館登録団体や地域の文化人にも講師を依頼し、体験を通して公民館活動への参加促進、地域人材の活躍の場の提供**を行う。また、公民館登録団体がボランティアとして活動している団体であれば、**報償費の削減も見込める**。